

「学校教育デザイン」の第一歩、 学校教育目標の策定

学校を取り巻く環境が大きく変化する中で、これからの時代を担う人材を育成する学校づくり、「学校教育デザイン」を描くことが求められる。その最初の一步が学校教育目標の策定だ。

不易と流行の視点を踏まえ、 全教師がかかわり策定する

学校教育目標とその策定は、次代を担う人材を育成する学校づくりの視点である「学校教育デザイン」を描く上での出発点であり、最も重要な要素の1つである。「答申」でも述べられているように、これからの学校教育目標は、自校が生徒にどのような資質・能力を育成するのかを明確化したものであることが求められる。

育成を目指す資質・能力は、学習指導要領を受け止めつつ、校訓や校是、建学の精神、学校や地域が創り上げてきた文化（校風）など、教育の根幹である「不易」の視点と、社会の変化や地域の実情、生徒の姿といった「流行」の視点を踏まえて考

えることが求められる。そして、学

校教育目標は、管理職などの一部の教師だけでなく、全教師がかかわりながら策定することが望ましいだろう。策定した学校教育目標は、学校全体で共有することはもちろん、地域や保護者などとも分かち合うことが重要である。

ここまで述べてきた、これからの学校教育目標のあり方、策定の流れをまとめたのが図1である。

地域や保護者のニーズ、 生徒の現状、伝統が基に

共有を図るといえる点で言えば、学校教育目標は校内外の多くの人が共感できるようなメッセージ性があり、かつ理解できる、具体的に分かりやすいものにすることが重要であ

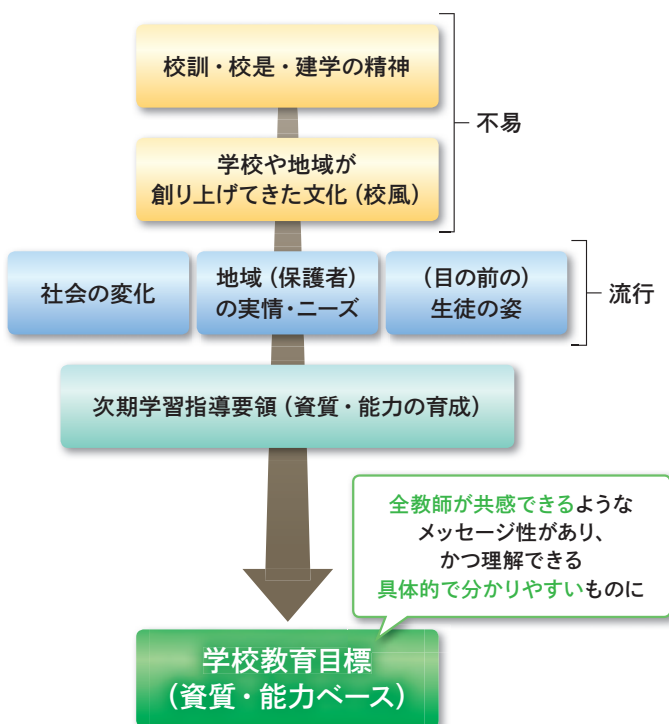
る。では、現在、各校が掲げる学校教育目標の現状と課題はどうなっているのだろうか。

まず、どのような学校教育目標が実際に掲げられているのか、その傾向を示したのが図2である。公立・私立ともに、多くの高校の学校教育目標に盛り込まれているのが、「自立 自主 主体性」「心の教育 豊かな心」といった言葉だ。それ以外にも、「人間性」「社会性 協調性」「学力向上 学力定着」「基本的な生活習慣」「自ら学ぶ力 自己学習力」と

いった言葉が、公立・私立ともに上位に位置している。

一方、公立・私立で異なる点は、公立が「地域 郷土」という言葉を多く盛り込んでいるのに対し（公立：51・8%、私立：15・8%）、私立は「国際 国際社会 グローバル」という言葉を多く盛り込んでいる（公立：32・0%、私立：53・7%）。さらに公立高校を学科別に見てみると、総合学科・専門学科とともに普通科と異なり、「基礎・基本」「社会規範 きまり」を学校教育目標の中

図1 これからの学校教育目標のあり方



上記の視点を踏まえた学校教育目標を、管理職だけでなく、全教師がかかわりながら策定し、それを学校全体で共有する

図2 高校が掲げる学校教育目標

公立・私立別		学科別(公立)							
公立	私立	普通科		総合学科	専門学科				
1 自立 自主 主体性	64.6	心の教育 豊かな心	67.2	自立 自主 主体性	66.5	自立 自主 主体性	66.7	地域 郷土	57.5
2 心の教育 豊かな心	56.4	自立 自主 主体性	64.3	心の教育 豊かな心	56.0	心の教育 豊かな心	61.1	自立 自主 主体性	56.1
3 地域 郷土	51.8	人間性	64.0	健康 体力	50.3	地域 郷土	55.6	人間性	55.7
4 人間性	49.9	思いやり	55.6	地域 郷土	49.7	社会性 協調性	51.1	心の教育 豊かな心	55.7
5 健康 体力	48.3	社会性 協調性	54.0	人間性	49.4	健康 体力	45.6	基礎・基本	54.2
6 社会性 協調性	46.8	国際 国際社会 グローバル	53.7	学力向上 学力定着	49.4	基礎・基本	45.6	基本的生活習慣	51.4
7 学力向上 学力定着	46.6	自ら学ぶ力 自己学習力	52.7	社会性 協調性	46.6	学力向上 学力定着	45.6	社会性 協調性	46.2
8 基本的生活習慣	41.2	学力向上 学力定着	51.1	自ら学ぶ力 自己学習力	42.2	人間性	42.2	健康 体力	42.9
9 自ら学ぶ力 自己学習力	40.5	生きる力	50.8	基本的生活習慣	37.9	社会規範 きまり	41.1	創造性 創造力	41.0
10 創造性 創造力	37.7	基本的生活習慣	45.0	創造性 創造力	36.8	基本的生活習慣	41.1	社会規範 きまり	36.3

出典/ベネッセ教育総合研究所「第6回学習指導基本調査」(2016年)

(%) ※複数回答

に盛り込んでいる学校が多い。これらの言葉をどのような観点から盛り込み、学校教育目標を策定しているのかを現場の教師に聞くと(図3)、「地域や保護者のニーズ」「生徒の現状」「伝統、文化」といった観点が基になったものであることが推察できる。まさに、それは図1で示した学校教育目標のあり方と重なるものである。

具体的に浸透しやすい 学校教育目標の設定が重要

では、「学校教育目標」に関してどのような課題があるのだろうか。本誌読者モニターアンケート(図3)や現場の教師へのヒアリングから、学校教育目標の理解・共有の課題として次のようなものが浮かび上がってきた。

①目標が抽象的で分かりにくいいため、教師によって理解度がまちまちである

②時間が経つにつれて、教育目標への意識が薄くなる

前述の通り、学校教育目標は、全教師が理解できる、具体的に分かりやすいものにするとともに、継続的

図3 学校教育目標に関する学校現場の状況

Q. 貴校の「学校教育目標」は、どのような観点を踏まえて策定されていますか。

- ◎校訓、現代社会の変化に応じたもの、地域や保護者のニーズなどをちりばめた内容かと思えます。(長野県)
- ◎伝統も鑑みっていますが、学校を取り巻く状況や生徒の現状を踏まえています。(愛知県)
- ◎学校・地域が創り上げてきた文化・校風や、地域・保護者のニーズが大きいと思います。(滋賀県)
- ◎校訓と校是に沿って、これまで築かれてきた学校文化を合わせて策定されているように思います。(広島県)

Q. 貴校の「学校教育目標」は、その意味・内容が全教職員に理解・共有されていると思われますか。

- ◎残念ながら、本校の学校教育目標は抽象的で分かりにくく共有されていません。具体的な目標にブレークダウンしていく必要があると感じています。(北海道)
- ◎理解はされているようですが、共有という点になると、その具体的実践内容面で問題があると見えます。そこどころが(そしてそれが一番大事なことなのですが)、詰め切れていないため、抽象論で終わっているきらひがあります。(神奈川県)
- ◎年度初めに校長から説明があり、理解や共有を図りますが、仕事に追われる中で徐々に理解が薄れていきます。共有を継続していくためには、定期的に確認していく必要があるような気がします。(静岡県)
- ◎教員によって理解に温度差があります。(大阪府)
- ◎知らないうちに職員会議に出てくるというのが実情です。(和歌山県)
- ◎具体的なイメージが湧きにくい目標、例えば「質の高い文武両道を目指す」って何をしたらいいの?という感じで、ビジョンの共有がされていません。もっと計画的に教職員に共有する働きかけが必要だと感じています。(広島県)

出典/『VIEW21』高校版読者モニターへのアンケート結果(アンケートは2017年4月にウェブとファクスで実施。回答数は52)

に教育目標の理解・共有を図る仕組みや風土をつくるのが重要だと言える。さらに、学校教育目標は一度設定すればよいものではなく、社会や生徒、地域の変化を受け止めた不断の見直しが求められる。

次ページからは、学校が現に直面する課題を踏まえ、学校教育目標を

策定し、校内外への共有・浸透を図りながら教育改革を続けている2校を紹介する。生徒の特性、そして学校に対するニーズの異なる2校は、どのような展望、そして決意を持って学校教育目標を策定し、「学校教育デザイン」の構築に取り組み始めたのか、その成果とともに見ていく。